

## 筑波大学(学部入学定員:2,077人)

[取組学部・研究科等: 人文・文化学群(240人), 社会・国際学群(160人), 人文社会科学研究科 国際地域研究専攻〔博士前期課程〕(45人)]

### 【構想の目的・育成するグローバル人材像】

グローバルな活躍の基礎となる深い教養とコミュニケーション能力を修得すると同時に、世界の新興国・低開発地域の文化や社会に精通し、ローカルなニーズを適確に汲みとることができ、現場での問題解決に貢献できる人材を育成する。

### 【構想の概要】

学士課程(人文社会系各学群)と修士課程(人文社会科学研究科国際地域研究専攻)を一貫し、学士課程後半で大学院の科目を履修、1年間の海外での留学(フィールド調査)とインターンシップを組み込み、全体で5年間で早期修了できる教育プログラム「地域研究イノベーション学位プログラム」を構築する。同時に、大学全体のグローバル化を推進するため「グローバル・ラーニング・コモンズ」を設置し、既存の学内組織を連携させることによって国際性が日常化したキャンパス環境の構築を目指す。

## ■ 教育課程の国際通用性の向上

### ○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

社会・国際学群、国際地域研究専攻で開設されている既存の英語コースを拡充するとともに、教養教育と外国語教育を充実させたグローバル・リベラルアーツの確立、留学による単位互換を容易にするグローバル科目群の設定を行う。

### ○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

地域毎に選別した重点協定校や本学の海外拠点を通じて教育プログラムの共有化と発信を行う。本学独自の国際関連の情報共有・活用システムを構築・活用する。

### ○ 事務体制のグローバル化

グローバル・ラーニング・コモンズの下にアドミニストレーター・コモンズを設置し、事務職員の国際化を目指した研修を行うとともに、協定校等への海外派遣を実施する。



〈海外協定校への海外留学や教員のFDを実施〉

## ■ グローバル人材として求められる能力の育成

### ○ ローカル最適なグローバル人材

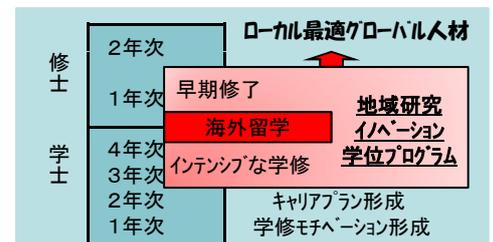
世界の諸地域の多様性を理解するとともにグローバルな視点を併せ持ち、地域と世界にとって最適な問題解決法を見いだせる能力。

### ○ 多言語に対応できる高いコミュニケーション能力

世界共通語としての英語に高い能力を持つだけでなく、地域言語・地域コミュニケーションのあり方にも理解力を有する人材。

### ○ 日本人としての自信と発信力を持つ人材

日本社会と日本文化に深い理解を持ち、自らの考えや価値観を世界に発信できる自信と積極性を持つ人材。



〈地域研究イノベーション学位プログラム概念図〉

## ■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

### ○ 入試における中等教育段階までの外国語力・留学経験等の適切な評価

中期的には入試の段階でプログラムの内容を公開し、プログラムに見合った学生を選抜する。具体的には英語による面接試験の実施やTOEFLスコアの活用、留学・在外経験等の評価の導入を検討する。

### ○ 効果的な語学教育及び教育体制

1年次の英語教育と地域に即した第2外国語の基礎教育に続き、3年次以降に現地語を中心に体系的な教育を行う。大学院レベルの授業に対応できる国際標準のレベルまで語学教育を強化する。また、グローバル・ラーニング・コモンズの下にスチューデント・コモンズを設置し、語学指導体制を強化する。

## ■ 教員のグローバル教育力の向上

### ○ 教育体制のグローバル化

G30との協力体制の下でグローバル化を推進するとともに、協定校との間で教員間の協力を深め、合同で教育プログラムを推進する。全学的には外国語による授業実施率25%以上を目指すとともに、外国人教員等の比率を20%以上に高める。

### ○ グローバル教育力向上のための取組

グローバル・ラーニング・コモンズの下にファカルティ・コモンズを設置し、教員の教育力向上へ向けFD研修等を実施する。本プログラムにおける海外の重点協力校との間で教員間の交流を深め、相互に相手校において授業開講などを行う。

## ■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

### ○ 動機付けや留学を促進するための取組

1年次の入学段階からプログラムへの誘導を開始する。グローバル人材に相応しい講師を招聘し、セミナー、講演会等を精力的に開催する。指導教員の早めの選定を通じて留学促進につなげる。

### ○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

指導教員がスカイプ等で常時コンタクトをとり指導を継続するとともに、協定校での指導教員によるアドバイス等でフィールド調査を実施し研究の充実を図る。現地事務所のサポートとともに、留学中に指導教員の現地訪問をプログラムに盛り込む。指導に際しては帰国後にギャップが生じないようにする。

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

《地域研究イノベーション学位プログラム修了生が修得すべき具体的能力》

- ①地域の多様性と個性を内在的に把握できる力
- ②地域のニーズを把握し、途上国における多くの課題(貧困、教育、衛生、格差等)の解決へと応用できる力
- ③深い教養と比較の論理に裏打ちされ、地域の知を相対化できる能力
- ④日本の開発経験に基づき説得できる発信力
- ⑤官民を含む広義の国際協力の現場で活躍できる即戦力
- ⑥地域から世界へ、ローカルに学び普遍的な知の体系への貢献ができる奥深い洞察力。

本構想において実現する達成目標

全学		2011	2012	2013	2014	2015	2016	
外国語カスタンダードを満たす学生数				34人	44人	58人	96人	
うち海外留学未経験者数(A)				17人	22人	26人	44人	
海外留学経験者数(B)		13人	14人	39人	58人	94人	136人	
卒業[予定]者数(C)		426人	409人	448人	433人	409人	400人	
比率((A+B)/C)				12.5%	18.5%	29.3%	45.0%	
人文・文化学群	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-ITP 550		10人(5)	16人(8)	26人(10)	48人(20)	
	海外留学経験者数	4人	4人	15人	26人	50人	72人	
	3カ月未満	0人	0人	5人	14人	28人	40人	
		3カ月～1年	4人	4人	10人	12人	22人	32人
		1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
卒業[予定]者数	254人	240人	259人	259人	246人	240人		
社会・国際学群	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-ITP 550		24人(12)	28人(14)	32人(16)	48人(24)	
	海外留学経験者数	9人	10人	24人	32人	44人	64人	
	3カ月未満	0人	0人	14人	20人	28人	40人	
		3カ月～1年	9人	10人	10人	12人	16人	24人
		1年超	0人	0人	0人	0人	0人	0人
卒業[予定]者数	172人	169人	189人	174人	163人	160人		
人文社会科学研究科	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-ITP550		-人(0)	4人(0)	20人(0)	20人(0)	
	海外留学経験者数	-人	-人	-人	4人	20人	20人	
	3カ月未満	-人	-人	-人	0人	5人	5人	
		3カ月～1年	-人	-人	-人	4人	15人	15人
		1年超	-人	-人	-人	0人	0人	0人
卒業[予定]者数	-人	-人	-人	4人	20人	20人		

※1)「外国語カスタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の( )内は、外国語カスタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※2)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。